

● 陰曆 二月三日

發行所 京都 新報社
 印刷所 京都 西門外 四丁目

めまいやうにしたいのであります。○
それから近頃間島と云ふ問題がありますが、
が金の滅亡后其殘黨中豆滿江以北に居を
立して一時は北韓境城附近まで頗有した

たが、一時暴行を逞ふして、遂に韓登攀
宅を焼拂ふたこともあります、それに
拘はらず、巧みに威福を弄するごころか
して、よく威服して居るやふに見えま
した、

この間島と云ふことに付ては十分な取調は
出来ませぬが、間島は金寧江と云ふ所より
所によつて先づ自國の權を主張し、中立
と附屬國と云ふやうな意味に解したな
らば當つて居るかも知れないと思ひます、
間島は東西にありまして、西の間島は鴨綠
江口の西から高麗門、愛國邊門、威威門、江
口と云ふ線があり、此線と鴨綠江の間で
あります、東のは豆滿江の左岸である、其
地形を見ると昔の威威門であつたと云ふ近
傍には、矢張其跡は残つて居りますし、險
隘の地又は分水嶺に依つて成して居りま
す、鴨綠江から約十五里乃至二十里位な所
より北方にて河地帯を認め來れる

高麗朝には之を藩胡と稱して朝貢せしめ
征韓の役清正の倭人に迷ひたるは實に此
江口地方にして近世北滿洲の歴史史門家
鑑定する處に據れば愛國營盤の祖先も亦
江口の渚を附近より是れ愛國營盤の祖先
孟哥帖木兒なりと云ふ當時は尙高麗麗麗
は藩胡と稱せられて朝貢せしが清國のは
大なるに及びて戰に勝ち支那本部に向へ
に際して高麗朝と約し間島地方を開闢地
と爲し、最近二十年前に前清の

九年なり韓國側より始めて同地帯に入
みたるは數十年來の事にして最近支那

定めて會つて讀むと云ふその言葉には必ず
然らざるが如く、又云ふも觀察の筆を表して居ります。
此等は義軍の分裂前より日本將校或は日
軍の紹介に依て、多く樺洲の支那の軍隊
の紹介に依て、服裝も違つて居りま
す。遠くつて居ります。

鴨綠江の下流の或る宿屋に住きました
時などは、不意に来て妙な風をして、
何う云ふ風にかすと云つて乃ち
方は何う云ふ風にするかといふ
邊り方には何う云ふ風にするかといふ

教師として居るのであるが、生徒
に教へるに困るから、日本の教師に聞きた
ると云ふで熱心に色々なことを聞いて居り

問島の境界 (三浦理學士談)

問島、梁島又は良土とは韓人の呼稱に似
て韓國の北方境界地方の總稱なるが現在
白頭山の東北及び西北地方を呼ぶ名稱とな
り、統置府派出所設置以來は之を區分し東西間
島の名稱を附し西面問島は松花江の流域東面
島は勇滿江の支流海蘭河布爾哈通河晏勞河
の流域なり此地方は韓人の所謂北梁島にし
て鴨綠口方面の間島を南梁島と稱して之を
區別し現今問題を生起せるは細かく北梁島に
限られ其區域は南は白頭山の東亞滿江に沿
つて鴨綠江に至る、西は鴨綠江の東岸に

よりは漢民入り込み來るに反び韓國は
南國民に對し行政權を行はんとせざる
なくとも今日の境界問題が生ずるに至り
たるものなり此問題の決定材料として唯
一定めける點は康熙帝の五十四年に白頭
分水嶺を經たられし定界碑にして轉面
西を鴨綠江とし東を土門江と爲すといふ
我主張は土門江とは勇滿江に非らずし
ては土門江と圖滿江とは互相通す故に
は土門江なりといふにあり清
江は鴨綠江と主張す即双方見解
に容易に打ち着きざる所以なら

識、身體の健全なる發達を謀り純潔なる社交により罪の誘惑に遠かり以て完全なる人

大人は健在であり、時に手助けをして上げた。来た時、馬に乗り、時に手助けをして上げた。常には名譽に思つて居る、恰度信實する坊主に頼つて貰つた云つて喜ぶが、同じやうに感じて居るのではありません、これは單に一例を申したので、自分達が滿地にいます。一日程のところから、既に當時の義軍に投じられたものに出遇ひまして、而かも医女に於てそれ等の爲めに間はす語りの懷偕を聞かされたたり、不知家内のごとく、宿舎を周旋したのである。朝鮮國の民族にありては、台滿山嶺の古句を此地方に往居し遂には高麗國を併へ、交上、種々な設備をして、年々を分の程

利用する。最も便利なるを以てなり。然る
作向地に於ては、聲調高、常に引用を充たす

事に通り事業の根柢は人物である。先づ最も通達なる青年會が其目的を達することは韓國鐵道の要路にある人々の希望を滿たす譯にて、つぎに鐵道事業の成功など見ても韓人民の幸福など鐵道の先例から見ては歐米の工場規模から察しても韓國鐵道目前の狀態に考へても韓國鐵道青年會の必要なる事と其前途の有望なる事は誰れも疑ひを挟むでないに韓國鐵道青年會設立の始末を略すに併せて日韓交通の進歩と發展を識者に希望する諸君子に此節に生れたる鐵道青年會を導き立てられんことを願ふのである。

土に製し、兎兒島日向地方へ糞肥一の農作物に
 料に使用せらるる故に其種類を多量に上れり
 左も仕向地に於ては獨り富國者のみならず
 す南清方面より供給せらるるもの多きも然
 れども其品質に於て遠く韓國品に及ばざる
 を以て需用者間に費用せらるるが故に交通
 運輸の發達に伴ひ本品の前途は有望なるを
 信する處とす

井
櫻
國

山田は清之助の長物語を、片唾を飲むで聽いて居つたが語り下るや、

「しかし、良い智慧と云つた所で、あゝ云ふ金主義の老翁さんには、金銭萬能で金で説明けるより、外に好手段は無いのだから残念ながら僕の今日の境遇は、金銭をもの

「決心と云ふは世の決心はなかつたのです、私の心では半歳なり一年の中に、金百圓の百五十圓か貯蓄へて、いざ愈々大

考から云つたまで、別に斯う爲やうと云ふ決心があつたと云ふ理ちやア無いのだね。」



つて大川と競争することは到底不可能の事だ、頼むは清ちゃんを精神一つだ落ちやんが断然不服だ云つて云ひ切つて下りやんア、一時は怒りもするだらうし、威しきも云ふだらうけれど、左に右今日では相當の収入もある清ちゃんのことだから、以前のやうに手酷い事を爲たり云つたりする氣遣はない、昔又餘り没義道な事をすれば、其時こそ家を飛出して終やア、流石の養父さん我を折つて、二度と家族に掛ねんと云はないに轉つて居る。

けれど、これは清ちゃんが往くと云はない前の話で、既に半年先でな往くと云ふ返辭を立たれたから、今更何と云つたつて先には立たない事だから今などは六月にしては何何にして其の目的を遂げると云ふ相談するより道はない、實に困つた事になつ

川へ移ると云はれた時に、實に期々として貴方と夫婦約束した一伍一件を打明けて何うあつても今更離れる事の出来ない事になつてから、どうや大川さんの方は斷はなて下さい、其代りに養父さんには尙齒の金本として、貴方から百なり百五十なりの金を貰つて上げますと斯う云つて頼む考へて了つたのですそれぢやア徒目でせうかね。

山田は、やゝ寸時く愚案した後、

「徒目な事はないをりやア至極精確な思慮へだ、要するに清ちゃんや豈夫の時では、平として可厭の云通すだけの覺悟を決し、へあれば可いのだ、然うすれば半歳の中は金子は何うにかして作らへるさ。」

「なにあに、金子は貴方に心配がなくツツて、私何何にかして作りますよ。」

目 科 業 營

活版活字鋳造
石版銅版
木版影刻
コロタイプ版
寫真版
諸般印刷
製本裝訂

日韓印刷株式會社

本社
東京出張所
東京出張所
電話三三三番
電話三三三番
電話三三三番

療 診 科 齒

漢城病院を辭して開業す

前東京市立齒科醫院
統監 飯塚 徹
東京市立齒科醫院
統監 飯塚 徹
東京市立齒科醫院
統監 飯塚 徹

京城診療所

仁川分診所
診療時間
午前八時より午後四時迄
午後七時より八時迄
毎五、十日京城新來休診

祝支店開設一週年大賣出し

來二、二十四日 向十日間

正札より一割引

景品券一圓毎に一葉進呈す

京城本町六丁目 富田支店

本 店
東京市日本橋區兜町
大坂、京都、神戶、名古屋、四日市
及出張所
仁川、釜山、大邱、元山、咸興、馬山、新義州
及出張所
平壤、安東、清津、南浦、海州、元山、咸興、馬山、新義州

第一銀行 支店

電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番
電話 營業部 一三三番

小森材木部

座敷廻り諸材料に注意取柄あり
右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候
間多少に不拘御用命願上候

京城地町一丁目
電話七四四番
本宅四〇五番

三井物産合名會社

京城出張所
電話二六六番
仁川出張所
電話六三三番

十八銀行 支店

京城
電話二六六番
仁川
電話六三三番

各種石炭大販賣

大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
三池塊炭
三池粉炭

青木醫院

一般衛生試験ノ依頼ニ應ス

院長 醫學士 青木 清六
副院長 醫學士 青木 志磨
藥局長 藥劑師 鳥山 貞雄
京城分院 主任醫師 百合野 福松
永登浦分院 主任醫師 松村 勝熊
病室増築中

眞崎鐵工場

日本九州佐賀
製鐵機械並に
諸機械製造販賣

眞崎鐵工場

高等下病 日の出館

京城明治町一丁目 (漢城病院向角入)

弊館は設備完全にして最も閑靜なり
弊館は可憐懇切を以て特色とす

新建築材料品々

金網 モナーク 瓦
打出 ハルト並に工事
リ サ イ
一名防火ペンキ
アスファルト
フ エ ル ト
原穴 材 防腐 劑
製國 壁紙 ◎ 石綿 瓦
建築用紙 ◎ エナノル

社會資合 會商原穴

熊平製造金庫

熊平製造金庫
熊平製造金庫
熊平製造金庫
熊平製造金庫
熊平製造金庫
熊平製造金庫
熊平製造金庫
熊平製造金庫
熊平製造金庫
熊平製造金庫

熊平商店

熊平商店
熊平商店
熊平商店
熊平商店
熊平商店
熊平商店
熊平商店
熊平商店
熊平商店
熊平商店

韓國通信社

韓國通信社
韓國通信社
韓國通信社
韓國通信社
韓國通信社
韓國通信社
韓國通信社
韓國通信社
韓國通信社
韓國通信社

日本郵船株式會社

汽船出帆廣告

仁川海運通
貨物及船客取扱店
電話三三三番

京城南大門通
電話三三三番

釜山長崎門司神戶行
三月十五日 後三時出
三月十七日 後三時出
三月十七日 後三時出
三月十七日 後三時出
三月十七日 後三時出
三月十七日 後三時出
三月十七日 後三時出
三月十七日 後三時出
三月十七日 後三時出
三月十七日 後三時出

日本漬澤庵大賣出し

味噌醬油製造
乾物荒物雜貨
銘茶食料雜貨

京城本町五丁目
濱物問屋 大上商店
(電話二五二番)

梅毒癩病

內科 外科
入院隨意 戸田病院
京城南大門外
電話五三三番

波戶場出帆所

波戶場出帆所
波戶場出帆所
波戶場出帆所
波戶場出帆所
波戶場出帆所
波戶場出帆所
波戶場出帆所
波戶場出帆所
波戶場出帆所
波戶場出帆所